令和６年度　学校評価自己評価書（豊山町立志水小学校）

資料1

経営理念	
	学校教育目標　…　力いっぱいがんばる子の育成
	めざす児童像　…　進んで学ぶ子　仲よく助け合う子　元気でたくましい子
	めざす教職員像　…　子どもを大切にする教職員　学び続ける教職員　協働する教職員

【評価基準】４…十分達成できた、３…ほぼ達成できた、２…あまり達成できなかった、１…全く達成できなかった

経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○進んで学ぶ子（確かな学力）の育成	・学習習慣の確立と基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得 ・自己教育力を培う役割を担う学校図書館の活用	1	齋藤 小川 山崎 原田	①　授業の導入で前時の振り返りをしたり、練習プリントを活用したりして、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。 ②　ばっちりメニューやわくわくメニューの取り組みを通して、自分に合った家庭での学習習慣を身に付けさせ、児童の自己学習力を高めさせる。 ③　基礎学力の定着を図るための漢字・計算コンクールを実施し、個に応じた指導に生かす。 ④　朝の読書や読書週間を設け、たくさんの本や多様な分野の本に親しむ機会を増やす。 ⑤　調べ学習等で、図書室や学習室の図書を活用した指導を行う。 ⑥　単元に関連した本を教室に置き、児童の自己教育力を培う。	①　授業の導入で前時の振り返りをしたり、練習プリントを活用したりして、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図ったか。 ②　ばっちりメニューやわくわくメニューの取り組みを通して、自分に合った家庭での学習習慣を身に付けさせ、児童の自己学習力を高めさせることができたか。 ③　基礎学力の定着を図るための漢字・計算コンクールを実施し、その結果を基にして、個に応じた指導に生かすことができたか。 ④　朝の読書や読書週間を通して、たくさんの本や多様な分野の本を親しむように指導したか。 ⑤　調べ学習等で、図書室や学習室を活用した指導をしたか。 ⑥　単元に関連した本を教室に置き、児童が本に興味をもつ機会を増やすことができたか。	児童 ①３．４ ②３．５ ③３．３ ④３．２ ⑤３．０ ⑥３．０ 保護者 ①③３．２ ②２．９ 教職員 ①２．８ ②２．８ ③３．１ ④２．９ ⑤２．９ ⑥３．０	①③おおむね基礎的・基本的な知識・技能ができている。多くの児童が漢字・計算コンクールにむけて、意欲的に取り組んでいる。 【参考数値】 ・２学期漢字コンクール賞受賞者 299人中　金141人　銀36人　銅31人 ・２学期計算コンクール賞受賞者 299人中　金63人　銀43人　銅43人 ②家庭学習に対する保護者の評価があまりよくなかった。 ④図書に関するアンケートに多くの児童が「とてもできた」「まあまあできた」と答えた。読書ビンゴの達成率が高く、児童が意欲的に活動することができた。 【参考数値】 ・読書ビンゴを達成した児童の人数299人中128人 ・授業で図書室を利用した回数（4月～1月）　平均10回	②家庭学習については、引き続き「ばっちりメニュー」や「わくわくメニュー」の取組みの様子を保護者にホームページで定期的に知らせていきたい。 ④学級での図書室利用回数はそれほど多くなかったので、学級活動や国語の調べ学習での活用を促していきたい。 ⑤図書フォルダにある「授業に関する本の一覧表」を各学級に配布して、活用できるようにしたい。
	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善 ※「聴き合い、学び合う」活動 ※「つなぐ」「もどす」ことで対話をつくる教師の役割 ※自己選択・自己決定や学びを自覚する振り返り ・体験的な活動の充実を支えにした深まりのある授業展開	2	長谷川 大橋 鷲澤	①　「分からないから教えて」と言える学級作りを基盤として、考えを聴き合い、学び合う場の設定をする。 ②　児童の小さな気付きや発言等を学級全体につないだり、児童の発言をもとに学級全体に問い返したりするなど、対話をつくり、思考を深めるための教師の指導言を工夫する。 ③　主体的な学びになるように、自己の学びを振り返る時間を継続的に設ける。 ④　動画やインターネットで学ぶだけでなく、具体物に触れたり、施設を見学したりする体験的な活動を取り入れ、深い学びになるよう指導法を工夫する。	①　分からないことを聴いたり、考えを伝え合ったりするなど学び合う場を設定することができたか。 ②　児童の気付きや発言等を学級全体につないだり、問い返したりするなど、対話をつくり思考を深める指導言を工夫できたか。 ③　自己の学びを振り返る活動の充実を図ることができたか。 ④　体験的な活動を指導計画に設定することができたか。	児童 ①３．４ ③３．３ ④３．６ 教職員 ①３．３ ②３．３ ③３．２ ③３．１ ④３．２	教職員が、児童の学びを深めるために振り返りの内容を工夫することができたことは、児童が学びを深めることができたという回答に繋がっていると考えられる。一方で、１割の児童が学びを深めることができなかったと回答している。 【体験活動】 １年（６年生との交流、お店屋さんごっこ） ２年（町探検　給食センター見学） ３年（秋田製麺・アピタ・警察署等見学） ４年（浄水場・輪中の里見学） ５年（三菱工場・美術館見学） ６年（お魚教室、狂言体験）	学びを深めることができなかった児童に対して、ペアやグループでの協働的な学びを行ったり、自分の考えを伝えやすくするためにわくわくタイムを継続して行ったりすることが大切であると考える。
	・多面的・多角的に考えて議論する道徳科の充実	3	福重 宮外 後藤	①　話し合い活動やワークシート、タブレット活用などの指導方法を工夫することで、自分の体験や感じ方、考え方を言語化したり視覚化したりして伝えさせる。 ②　さまざまな見方や角度からの考えを交流し、話し合いを深める学習活動を行わせる。 ③　自己を見つめ、道徳での学びを「自分事」として考え、これからの生き方に生かしていくことを見通せる場を設ける。	①　話し合い活動やワークシート、タブレット活用などの指導方法を工夫することで、自分の体験や感じ方、考え方を言語化したり視覚化したりして伝えさせることができたか。 ②　さまざまな見方や角度からの考えを交流し、話し合いを深める学習活動を行わせたか。 ③　自己を見つめ、道徳での学びを「自分事」として考え、これからの生き方に生かしていくことを見通せる場を設けたか。	児童 ①３．５ ②３．４ ③３．３ 教職員 ①３．３ ②２．８ ③３．１	①伝え合う方法を固定せず、各教員が児童の実態や内容に応じて、さまざまな方法で交流させたことにより、児童アンケート、教職員アンケート共に数値が向上したと思われる。活発な意見交流が行われている様子がうかがえる。 ②児童アンケートの数値結果は高いが、教職員アンケートの数値結果は低い。これは話し合い活動は行うことができているが、教職員が期待する話し合い活動の高まりや導き出す回答の価値の深まりが見られていないと思われる。 ③主に授業後半において物語から離れ、「自分なら」と考える機会を多く設定したことから児童・教職員とも評価が高い。これからの生活に生かそうとする姿が増えていることが分かる。	②学習活動として定着してきた話し合い活動をさらに高めさせるために、今後は、児童が話し合い活動から導き出す回答の価値の深まりを生み出させるための工夫が必要と考える。
○仲よく助け合う子（豊かな心）の育成	・共感的な関係作り、自己の可能性の追求、思いやりと自己有用感を育む活動の実施 ※児童会活動や縦割り班活動の充実※自他の存在 を大切にする取組	4	藤井 佐藤涼 高柳	①　企画運営委員会と生活委員会を中心に、異学年交流の全体集会を企画・運営し、縦のつながりが深まる活動を工夫する。 ②　縦割り班を編成し、清掃や集会、読み聞かせ等の活動を行い、高学年に役割をもたせ、自己有用感を育む。 ③　縦割り清掃の反省会では、掃除を通して互いを認め合う活動を取り入れ、自己有用感を育む。 ④　縦割り班の６年生に対する感謝の気持ちをメッセージカードに書き、６年生にプレゼントする。 ⑤　１年生と６年生とのペア活動など、異学年での交流を行い、思いやりや感謝の心を育む。	①⑥　集会や行事、縦割り班活動等を通して、異学年との心のつながりをもたせられたか。 ②③　集会や行事、縦割り班活動等を通して、児童の自己有用感を高めることができたか。 ⑤⑥　日常生活や縦割り班活動を通して、思いやりや感謝の心を育むことができたか。	児童 ①⑤　３．５　②③３．２ ④⑤３．５ 教職員 ①⑤３．５ ②③３．１ ③３．２ ④⑤３．１	②③縦割り清掃の反省会で発言している児童が固定化されているように感じる。また、褒められる児童も同じ子ばかりになっている班もあるようである。 ②③教職員のアンケートでは、自己有用感を高めたり、思いやりの心を育んだりすることが若干数値の低い結果となった。 【参考】 ・縦割り清掃実施状況　週２回 ・縦割り班を活用した取り組み ・お楽しみ集会（７月・１２月） ・縦割り班遊び　・縦割り班なわとび　など ・異学年交流を行った授業 校内探検（１年・６年）、ソーラン節（５年・６年）	②③日々の反省会に加え、半期に一度くらいしっかりと反省だけをする時間を確保し、全員ががんばっているところを伝え合うとよいのではないかと考える。また、班長や高学年の児童には、より多くの児童を見てがんばりを認められるよう支援していくとよい。 ②③年度末に実施している６年生にお礼の気持ちを伝える活動だけでなく、各教室に「よいことみつけ」カードを掲示する場所を作りカードをもらったら自分の教室に貼るとか、「思い出の木」が掲示してあるスペースを「よいことみつけ」のカードを貼る場所にして、お互いの良い姿を伝え合う場にする等、全校で、もっとお互いの良いところを発信する機会が増やせるとよいと考える。
	・気持ちのよいあいさつ、返事の励行 ・児童の心に寄り添った多様な教育相談活動の実施	5	舘野 伏見 小林	①　進んであいさつができるよう、あいさつ運動を行ったり、学校外で保護者や地域の方にもあいさつができるよう、学級・学年で継続的に指導をする。 ②　自己指導能力を高めるために、時間を守って行動できるように声掛けをし、チャイム前着席を徹底させる。 ③　自己指導能力を高めるために、身の回りの整理整頓を心掛けさせる。 ④　教職員は１人でも多くの児童の名前と顔を一致させ、児童の安心感を高めるとともに、いじめなどの問題が児童から訴えやすい環境を学校全体で作る。 ⑤　担任は、１日の生活の中でクラスの児童全員と言葉のやり取りをする。担任以外は、あいさつ等を通して児童とのコミュニケーションを図る。 ⑥　毎朝「心の天気」を入力させ、自身の心の健康を意識させるとともに、児童の様子を把握する一助とする。 ⑦　いじめに関するアンケートや教育相談、チャンス面談の実施やあのねボックスを設置する。児童の不安感や困り感を教職員が把握し、いじめや不登校を未然に防止するために活用していく。 ⑧　いじめ不登校等対策会議を実施し、職員間の共通理解を図る。 ⑨　保護者との連絡を密にし、家庭と学校の共通理解に努める。また、家庭と連絡を取った内容は学校や学年で情報を共有する。	①　児童は、進んであいさつ・会釈をすることができたか。 ②　時間を守って行動させることができたか。 ③　下駄箱やロッカーの整理整頓を心掛けさせることができたか。 ④⑤⑥　毎日、児童とコミュニケーションを取り、児童の様子を把握することに努めたか。 ⑦　児童が安心して生活できる環境を作ることができたか。 ⑧　職員間で情報共有を図ることができたか。 ⑨　保護者との共通理解を図ることができたか。	児童 ①３．４ ②３．４ ③３．３ ④⑦３．４ 保護者 ①２．９ ④⑤⑨3.0 職職員 ①３．４ ②３．３ ③３．１ ④３．３ ⑤⑥３．５ ⑥２．５ ⑦⑧３．５ ⑧⑨３．７	①今年度生活委員会を中心に様々な取り組みを行った。朝のあいさつ運動では、生活委員が毎日門の前に立ち、あいさつ運動を行った。行っていく中で感じた課題を委員会で出し合い、１１月には「会釈」、１月には「ハイタッチ」を取り入れ、あいさつを盛り上げていった。４月に比べ児童の顔が上がり、あいさつを進んで行う児童が増えた。 ⑦⑧教職間での情報共有に関しては、今年度「問題行動」や「共有すべき事案」が起きたときには積極的に情報共有をし、報告、連絡、相談を行うことができた。「諸問題」として職員が回覧できるフォルダーを作り重要な事柄を残していくこと、また、いじめ不登校対策委員会で月ごとにまとめて情報共有を行った。	①４月当初は生活委員も積極的にあいさつを行うことができていなかった。その理由としては、「あいさつをしても返してもらえないという不安がある」ということだった。このことから、あいさつを交わし合える「安心してあいさつをできる環境」が大切だと考えられる。その環境を教員をはじめ、生活委員が中心となってつくっていきたい。また、あいさつを返してもらえるかどうかに関わらず「自らあいさつができる児童」を育てていくために、「自分からあいさつをすることで得られるメリット」を児童に感じさせ、自らあいさつができる志水小学校の児童の育成を図っていきたい。 ⑦⑧教職員間での情報共有は、先生方への負担が増えてしまった部分もあるが、次年度やそれ以降の児童対応のためにも続けていきたい。
○元気でたくましい子（健やかな体）	・いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応							

【評価基準】４…十分達成できた、３…ほぼ達成できた、２…あまり達成できなかった、１…全く達成できなかった

経営目標	重点目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	改善に向けて
○元気でたくましい子（健やかな体）	・健康な生活習慣づくりと食育の推進 ・体育的な行事・活動と遊びの充実	6	角 伊藤実 伏見	①　健康的な生活習慣の育成のため、年８回元気アップカードを実施する。 ②　児童と保護者を対象に学校保健委員会を実施し、食育と生活習慣について講演を行う。 ③　ランニングカードを活用して、志水っ子ランニングや休み時間、体育の授業を行い、運動習慣の定着を図る。 ④　なわとびカードを活用し、なわとび運動を実施し、身体能力の向上を図る。 ⑤　運動会を企画し、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての関心を高め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行う。 ⑥　栄養教諭よりバランスのよい食事について、児童と保護者を対象に指導する。 ⑦　食育指導を通して、バランスのよい食生活の定着を図る。	①②　健康的な生活習慣を意識して過ごすことができたか。 ③　ランニングがんばりカードを通して、進んで運動に親しむことができたか。全校児童がランニングカード１枚目を走破できたか。 ④　自分で決めたなわとびカードの目標を達成することができたか。 ⑤　学級や学年、全校児童で協力して、規律ある行動をしたり、積極的に運動に親しんだりすることができたか。 ⑥⑦　食育指導を通して、バランスよく食事をとることができたか。	児童 ①３．５ ④３．０ ⑤３．６ ⑦３．４ 保護者 ①２．９ ③④３．１ ⑦３．１ 教職員 ①３．５ ③１．７ ④３．１ ⑤３．４ ②⑥⑦3.3	①元気アップカード期間中は、健康を意識して取り組んでいる児童が多いが、その意識が継続しないのが問題点ではないかと考える。 【参考数値】 ・元気アップカードパーフェクト達成者（別紙グラフ参照） ⑤縦割り班の長なわ、学級での長なわ集会では、それぞれが声をかけ合って協力して行うことができていた。学級の長なわは、回数を重ねるごとに記録を伸ばすことができた。 ⑥１年生の親子給食では、野菜が苦手な児童が残さず野菜を食べている姿を見て、保護者が驚いていた。また、栄養教諭から野菜をおいしく食べる方法を聞き、家庭でも挑戦したいという意見が多く出た。２年生で給食センターの見学をし、給食を作っている人の大変さや苦労を知ることで、児童から「感謝して食べよう」「残さず食べよう」という意見が出ており、意義のある活動であると言える。	①元気アップカード期間以外も、児童に健康を継続して意識させる働きかけを考えていきたい。 ⑤なわとびやランニング集会のときは外に出て積極的に運動している児童が多かったが、集会が終わったあとの運動の継続につながらなかったので、運動習慣が身に付くような仕掛けを考えていきたい。
○開かれた信頼される学校づくり	・地域のボランティア、ゲストティチャーの活用 ・家庭や地域と教育目標を共有し、学校改善を進めるための学校評価の実施 ・学校公開の充実とホームページ、学年だより等を活用した情報発信	7	教頭	①　教科の学習内容に沿った出前講座、地域や家庭のボランティアの活用等の計画を立てる。 ②　事前打合せを行い、本時のねらいを明確にするとともに、事後の評価をし次年度への記録を残す。 ③　前年度実施アンケートの意見を生かすとともに、学校教育目標・重点目標に基づき、具体的な取組を計画的に行う。 ④　自己評価書を公開し、学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見を反映して評価結果をまとめる。次年度に向けた改善方策を全教職員で具体的に検討する機会を設ける。 ⑤　地域や保護者の方が学校を訪れる機会を状況に応じて設け、授業の様子を公開する。 ⑥　学年便りや保健便りを月１回、必要に応じてその他の便り等を発行し、学校の取組について情報発信をする。ホームページを随時更新し、児童の様子を知らせる。	①　地域や外部ボランティア、ゲストティーチャーを活用することにより、学校生活の充実が図れたか。 ②　本時のねらいを明確にするとともに、事後評価し次年度に向けて記録を残したか。 ③　学校評価の取組を計画的に行い、学校教育目標・重点目標に基づいた「具体的な取組」について実践することができたか。 ④　全職員で具体的に検討して、自己評価書をまとめることができたか。 ⑤　地域や保護者の方に、学校公開を行うことができたか。 ⑥　各種便りやホームページを活用し、学校の取組や児童の様子を知らせることができたか。	保護者 ④１．８ ⑤⑥３．２ 教職員 ①３．０ ②３．１ ③３．０ ④２．９ ⑤⑥３．２	・外部講師を招いての出前講座を実施することで、学習内容の充実につながった。 【出前講座】 １～２年（学校保健委員会「食育Ｇｏｏ」）３年（自転車教室・人権教室・リコーダー指導）４年（福祉実践教室）、５・６年（保護者による仕事の話）、６年（福祉実践教室・租税教室・薬物乱用防止教室・戦争体験伝承会、北部市場出前講座・琴教室）、全学年（読み聞かせ・どんぐり読書会、情報モラル教室（リモート教室を含む））、クラブ活動（琴） ・各種便りや学校新聞、ホームページ等を通して、子どもの様子や学校の取組を発信することができた。 ・本時のねらいを明確にするとともに、事後評価し次年度に向けて記録を残した職員は昨年度より増えている。 ・運動会、作品展・学校公開を実施し、保護者に学校の様子を直に見ていただくことができた。 【参考】学年だより　年13回発行　保健だより　年13回発行 ホームページ記事数　２１３件（２月17日現在）	・「出前講座一覧表」に、次年度に向けての評価を記録し引き継いでいきたい。 ・ＰＴＡ総会・学級懇談会では時間を十分に取れず、保護者に本校の教育目標及び重点目標を直接伝えることが難しい。ホームページで子どもの学ぶ姿を紹介してきた。保護者に理解が得られるようにより充実していきたい。 ・来年度も、班別会議日を設け、取組内容の見直しを図るなど、教育活動をより充実したものとしていきたい。 ・学級経営案を作成するにあたり、重点目標に基づいた「具体的な取組」について意見交流を図る。更に、学期ごとに学級経営について振り返り、次学期に向けての方針・改善点を考える。
○教職員の資質向上	・教材と向き合い、子どもと向き合った授業の構想 ※子どもを主語とした授業づくり ・ＯＪＴによる効果的・効率的な研修 ・現職研修の充実と授業力向上を目指した教員同士の授業参観・主体的交流	8	鷲澤 小林	①　学年間や担当者間で情報を共有することを大切にし、若手教員が相談しやすい環境を整え、児童への指導やさまざまな取組に生かす。 ②　授業研究を計画に沿って行うとともに、研究授業以外にも他学級の授業を参観する機会を自ら設け、授業力の向上を目指す。 ③　各部会で研究授業を実施し、決定や振り返りが子どもの主体的な学びにつながっているかの情報共有を行い、自らの資質・能力の向上を図る。	①　学年間や担当者間で情報を共有し、よりよい学校づくりに向けた取組を考え、実践することができたか。 ②　授業研究を計画に沿って行い、授業力向上のため、他学級の授業を参観する機会を設けることができたか。 ③　各部会で研究授業を実施し、決定や振り返りが子どもの主体的な学びにつながっているかの情報共有を行うことができたか。	教職員 ①３．４ ②２．９ ③３．３	①学年間や担当者間での情報交換は、日頃から行われている。 さまざまな取組は、簡素化したり、別の内容に変更したりして実践することができた。 ②研究授業以外でも、他学級の授業を参観する機会をもった方は半数近くいた。 【参観回数】 学期に２回以上‥７名　　学期に１回…４名 年間に１～２回…２名　　参観なし…３名 ③国語や算数だけでなく、さまざまな教科で振り返りを実施している。児童に対して実施した、振り返りに対するアンケートでは、９割近くの児童が、自らの学びにつながっていることを実感している。	③学年や教科ごとに分かれて実施した検討会では、一人一人の取組や課題を積極的に意見交換する姿が多く見られた。今後も継続して実施していきたい。
○業務改善に向けた職場環境の整備	・さまざまな課題に対して協力し合える体制づくり ・業務の見直しと効率化 ・定時退校の推進	9	校長 前嶋	①　困っていることがあれば共有し、知恵を出し合って対応する。報告・連絡・相談を、学年間、担当者間等で確実に行い、共通理解の下、チームで事にあたる。 ②　必要な業務かどうか検討し、業務を見直し効率化を図る。 ③　基本月２回の定時退校日を設ける。「かえるボード」を利用し、退校時刻を意識して仕事をする。	①　報告・連絡・相談体制が機能し、チームで事にあたることができたか。 ②　業務の見直しと効率化を図ることができたか。 ③　定時退校日を実施することができたか。 ③　退校時刻を意識して仕事をすることができたか。	教職員 ①３．４ ①３・４ ②２．７ ③２．９	①校務分掌で困ったことがあったときに相談できたという実感がもてた職員は、昨年度と変わらず「３．４」であった。報告・連絡・相談体制が機能しているかについては、昨年度の「３．３」から「３．４」へ微増した。生徒指導全体会で対話形式を用いて話し合うなど方法の工夫や会議以外でも情報共有を意識することが多くなった。また、職員一人一人が職員間のコミュニケーションを大切にしている雰囲気が感じられた。 ③常勤の職員20名については全員、毎月の在校時間状況記録の提出ができた。月80時間以上超過勤務は４月に２名、月45時間以上の超過勤務は４月７名（80時間以上の２名を含む）、５月７名、６月７名、７月１名。８月０名、９月４名、10月６名、11月３名、12月１名、１月１名であった。 ③自分で退校時間を決める「かえるボード」はおおむね活用されているが、決めた時刻に帰れていない職員も多い。	①経験の浅い教員や本校１年目の教員を職員全体で支え、共に学び合い・支え合い・成長する職員集団を目指し、会議の方法を工夫したり、報告・連絡・相談をこまめに行ったりして、一人で悩まないようにしていきたい。 ①生徒指導や個別に支援が必要な児童の支援など、チームでの対応ができるように、情報共有と取組の方向性について検討する。そのために、管理職及びミドルリーダーの発信が重要になる。 ②会議での資料や要項、児童への配付物等でICT活用を進め、合理化をさらに推進する。

学校関係者評価（その他の意見・改善策等）

＜学習面＞
・振り返り活動について、６年生の中には中学校で調べてみたいと考えている子もいる。
・振り返り活動を教員はどのように活用しているのか。
　→子どもの振り返りを見て、教師自身も授業の振り返り・反省をして、次の授業がよりよくなるように活用している。
・調べ学習について、タブレット端末と本それぞれのよさがあるので、どちらも大切にしてほしい。

＜読書指導＞
・図書室、学習室の本をもっと利用してほしい。保護者ボランティアで明るい図書室へと整備できた。今後は、使いやすい図書室へと整備して行く必要があるのではないか。限られた時間を有効に活用する工夫をしたり、学級図書の破損した古い本は新しい本に交換し充実させたりするなどして本の魅力を広げてはどうか。
・調べる方法が本からタブレット端末へと変わってきているが、家庭での本の利用を促してはどうか。

＜生活面＞
・ＳＮＳのもつ「怖さ」について、児童にきちんと伝えてほしい。

＜全般＞
・通学路にある個人宅のブロック塀に掛けてある陶器プランターが落下しないか心配しているが、対応してもらえない。
・先生方は大変がんばっているが、目一杯働いているとゆとりがなくなってしまう。休日はしっかり休みを取ってリフレッシュしてほしい。

＜自己評価書＞
・児童の自己評価が高いのは、自己有用感が高いと考えられるのでよいと思う。
・項目別評価を数値化するのは大変なことで、素晴らしいことだと思う。自己評価書を、「やったこと」や「結果」を知らせるためには、内容を精選し見やすくする工夫をしてほしい。
・ホームページに掲載するだけでなく、紙媒体で配付したり、年度始めの学年懇談会で担任から紹介してはどうか。